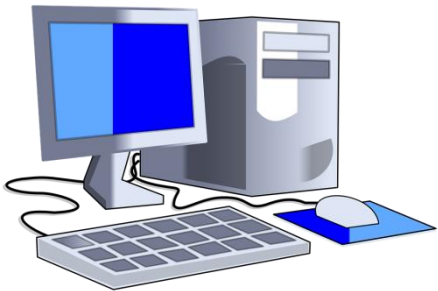


口は健康のもと Vol.216

デジタル歯科治療② 進化する歯科技術

今回はデジタル技術であるCAD/CAM法を利用した「被せ物（＝冠）」についてご紹介いたします。

CADはコンピュータによる冠のデザインを、CAMはコンピュータ制御機器による冠の製作を意味します。この技術は1960年代から自動車産業などに導入され始め、1980年代後半に歯科用に改良されました。歯科にCAD/CAM法が応用される以前では、層状にレジン（プラスチック）を“盛り上げ”て白い冠を製作していましたが、噛んだときの層間での破壊やレジンの摩耗など、その強度に難がありました。一方、CAD/CAM法では均質なレジンブロックから冠を“削り出し”て製作するため、冠自体の強度が向上しこれまでの欠点を克服できました。2014年にはCAD/CAM法で製作された冠が保険診療に認められ、奥歯（前から4・5番目の歯）も治療対象となり審美的にも良好な処置として高く評価されています。ただしレジンでは金属に比べると強度が低くすり減りやすいため、入れ歯のバネがかかる歯には銀歯（金属冠）が適していると考えます。治療の際は、かかりつけの歯科医師へご相談されることをおすすめします。お口の健康は人生を楽しく生きる要素のひとつです、歯科治療も大事ですが、ご自身でのお口のお手入れこそが重要です。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 羽鳥 弘毅

